



Hello! from LONDON

16.July.2023 No.3

五味 公人



皆さんお元気ですか？ このところロンドンも暑い日がありました。2日ほど日中は30℃近くなり、暑さに慣れていないロンドンっ子は、バテバテでした（もちろん私も）。ただ、朝夕は涼しいし、日陰に入れば風が心地よいので、日本より過ごしやすいのかもしれない。

先週の3日間、ロンドン日本人学校には緊張が走りました。それは、OFSTED（英国教育水準局）の監査が入ったからです。本校は、英国における私立学校として認可されているので、英国の定めた”Independent School Standards”に従う必要があります。この監査は、学校がそれらの基準に適合しているかをあらゆる観点から監査するのです。実は私が赴任する数年前、本校はこの監査で「不合格」を言い渡されていたのです。不合格とはつまり閉校です。（現に近くの高校は閉校させられています。）その時は外務省・大使館・文科省が、閉校阻止のために動いてくれたので、日英両国の友好的な関係から、今すぐ閉校ではないが、改善されなければ閉校だと言いつけられていました。その後コロナ期を経て、一昨年度からまた、監査が始まりました。しかし以前よりは改善されたがまだ…と、たくさんの宿題を出されました。つまり依然「仮の存続」だったのです。だから研修を重ね施設の修繕もして今年度を迎えたわけですが、OFSTEDの監査はいつも来る前日になって連絡が来ます。まさに抜き打ち、用意する間を与えないで見に来るのです。

私自身、教務主任として、小中学部全9学年のことについて、教科指導の仕方やその成果、進学の様子などはもちろん、British Valueと言われる、民主主義の尊重、個人の自由、宗教に対する寛容、法の遵守などを、どの教科でどのように、いつ指導しているのか、また次の学年とのつながりはどうしているのかなどについて、それは細かく1時間たっぷりインタビューされました。さらに次の日も、人権や虐待、ギフテッドやSEN（特別支援）の子の指導について、また1時間聞かれました。このような教職員へのインタビューや授業参観とともに、児童生徒へのインタビュー、さらには朝の登校時間の様子の観察と保護者へのインタビュー、教職員や保護者、児童生徒へのアンケートなど、それはもう、あらゆる観点でロンドン日本人学校の実態を監査されたのです。だからその3日間が終わった時には、もう、くたくた…。結果はまだ明らかにされていませんが、教育に関することについては、Out Standing（素晴らしい）らしいのですが、その他のことに若干、改善の余地があるようです。とりあえず閉校は免れました。しかし今年度中に、また必ず来ます…。日本では考えられないですよ、児童生徒が通っている学校が、突然閉校になるなんて。いい学校なのですよ、ロンドン日本人学校は！

そのロンドン日本人学校の歴史を振り返る創立記念集会を先日行いました。1976年6月18日、英国教育省からの認可を受け、正式に全日制義務教育学校として誕生した本校は、今年で47周年



を迎えます。集会では、校歌に歌われているカムデン校舎時代のリージェントパークでの体育の授業やチャペルでの卒業式、文化祭、そして現校舎に移ってからの様子などの映像を見て本校の歴史を辿りました。その歴史が、赤煉瓦や菩提樹、バラの香り、イーリングなどの歌詞として、現在も校歌の中に織り込まれています。今後も、本校が受け継いできた「自由な校風とその責任」について、児童生徒一人一人が真摯に向き合い、ロンドン日本人学校の未来を築いていこうという気概をもって、精進していったほしいと思います。

